

令和7年度 八代市ケーブルテレビ放送番組審議会 議事概要

開催日時 令和8年1月15日（木）13：30～14：30

開催場所 八代市役所 302 会議室

出席委員 審議会委員総数8名 出席委員数7名

●審議会委員（敬称略）

磯谷 政志 会 長

上野 留美 副会長

山口 明子 委 員

坂川 智孝 委 員

田中 志朗 委 員

森永 光子 委 員

奥村 英子 委 員

坂井 ひろみ 委 員

【自主放送番組審議：委員の発言】

① 『九州イチオシ！熊本』中学生によるボランティアガイドを体験 10分

- ・日本遺産に認定された石工集団、石工文化の紹介が的確であった。冒頭のレポーター紹介の際に、東陽町の場所を示してもらえると、さらに分かりやすかったと思う。
- ・橋本勘五郎さんについて、名前は知っていても顔までは知らない人が多いため、クイズ形式で紹介した点が良かった。
- ・移動中にお客さんと世間話を交わす様子から、非常に高いコミュニケーション能力が育まれていると感じた。
- ・移動する人々を正面から捉えた映像が安定しており、自分自身が東陽町を散策しているような感覚になり、楽しく視聴できた。
- ・中学生がこのような活動に取り組むことは、非常に良い試みである。緊張しながらも頑張っている姿がしっかりと捉えられており、番組としてその努力を後押しする役割をケーブルテレビが担っていると感じた。
- ・ボランティアガイド開催のお知らせまでしっかりと周知されており、抜け目ない構成だと感じた。また、参加者の意気込みがよく伝わってきた。
- ・聞き手がうまく話を引き出しており、ボランティアガイドの内容がよく理解できた。

コンパクトにまとまった良い番組であった。

② 『栗木六大神社の春の大祭』 記念碑に刻まれた先祖を思う 20分

- ・ 高齢化により祭りの継続が非常に難しい中、ケーブルテレビで取り上げることは、その大切さを認識し、地域で共有する上で意義のある取り組みだと感じた。
- ・ 石碑に刻まれた父親の名前を見たときの感動がよく伝わり、印象に残った。
- ・ 高齢化が進む中でも、地域への深い愛情を感じられる番組であった。非常に感動し、一度は参拝してみたいという気持ちになった。
- ・ 戦中・戦後の話を通して、代々受け継がれてきた思いが今も伝えられているのだと感じた。
- ・ 番組を放送することで、「自分たちの地区も頑張ろう」というきっかけになると感じた。大和時代にこの地域に人々が集落を形成した歴史の繋がりが分かる内容であった。
- ・ 受け継がれてきた大切な行事であることがよく分かった。多くの人がお参りに訪れていることに驚いた。
- ・ ルーツをたどり、ご先祖の足跡が見つかったときの喜びと驚きが強く伝わり、非常に感動した。また、フィリピンとの繋がりにも驚かされた。貴重で、ぜひ後世に残すべき番組である。

③ 『合志野地区を見守り続けた』 イチイガシありがとう 25分

- ・ 地区の結束の強さを非常に感じた。大きなご神木の伐採がいかに大変な作業であるかがよく伝わった。
- ・ とても思い出のある木であったことがよく伝わった。伐採には寂しさも感じたが、復旧工事のための前向きな決断であり、今後は多くの家が建ち、地域の生活が再び営まれていくことを期待したい。
- ・ 伐採されてしまったことは残念だが、新しい芽が育ち、再び地域の皆さんに愛される存在になってほしいと感じた。
- ・ 伐採の難しさや高度な技術が丁寧に描かれており、大変興味深く、非常に良い番組であった。25分と比較的長い構成であったが、飽きることなく最後まで視聴できた。映像として残すことで、記憶だけでなく記録として後世に残る点も意義深い。
- ・ どこかで決断が必要であったと思う。現場の緊張感が映像を通して伝わってきた。
- ・ 大きな木を伐採する際にどのような工程や配慮が必要なのかを知ることができ、ひと

つ物知りになった。現代の伐採技術やドローン撮影も印象的で、音楽もノリが良く、思わず見入ってしまった。

- ・冒頭の印象的な映像から、災害の爪痕が今なお残っていることを強く感じた。BGM も効果的で、視聴者の気持ちに寄り添う使い方がされていた。

◇自主番組に対する全体的な意見

- ・映像として残すことで、後世へ伝えることができる。ぜひ、映像の活用機会を積極的に打ち出していきたい。
- ・以前は行事のたびに1～2週間ほどで放送されていた。行事の約1か月後にでも放送する機会があってもよいのではないかと感じた。
- ・子どもからお年寄りまで、より多くの方が視聴できる仕組みがあればよいと感じた。
- ・改めて「歴史」を感じた。それは石橋の歴史であり、人材の歴史、そして地区の歴史である。地区の歴史と人々の営みがあり、それらが文化として語り継がれていく。ケーブルテレビには「記憶」と「応援」の役割があり、今後も継続して取り上げてほしい。
- ・より多くの人に自主放送番組を視聴してもらい、感動を共有できるような工夫を求めたい。
- ・メリハリのある番組づくりができている。さまざまなイベントでスタッフの方々をお見かけするが、暑い中、寒い中でも常に一生懸命に取り組まれており、改めてエールを送りたい。
- ・地域の活力を維持するため、その一助となる映像コンテンツの制作・保存・発信を、今後も継続してほしい。